

火よけ阿弥陀如来

この木像は、無量の光の佛である阿弥陀佛を表している。それは、9世紀後半に永観堂（当時の禅林寺）を設立するための努力の一環として、真紹僧都（797～873）によって作られた五智如来の5体の像の1体と言われている。寺院の伝説によると、この像は、応仁の乱の初年（1467-1477）の東岩倉の戦いで、ほとんどの寺院群を破壊した火から奇跡的に救われた。像がわずかに右手を損傷していることが判明したとき、この像は「火よけ阿弥陀」と呼ばれるようになった。

その像を取りまく伝説とは裏腹に、彫像の様式のいくつかの外見的要素から、鎌倉時代（1185-1333）に作られた彫像の典型であり、いくつかの視覚的要素から、何世紀もの後の江戸時代（1603-1867）に彫られた可能性さえあることが示唆される。彫像とその不確かな歴史は、「永観堂の七不思議」の一つに加えられている。